

発言No.

4

受付No.

14

令和4年2月15日

10時40分 受付

一般質問発言通告書

議席番号 21 番

氏名 川神 裕司

答弁を求める者

☒ 市長

☒ 教育長

監査委員 選挙管理委員会委員長

(○をつける)

農業委員会会長

固定資産評価審査委員会委員長

公平委員会委員長

発言項目及び要旨

1 石見神楽を中心とした日本遺産活用戦略について

(1) 石見神楽支援伝統産業の早急な文化財認定について

- ① この度第14回産業観光まちづくり大賞において、市内石見神楽関連施設・工場の取組が「銀賞」に選定された。中央の評価に地元が追いついておらず、まずは蛇胴制作等の技術者指定を早急に行い、併せて神楽産業の文化財指定を行う必要がある。神楽産業発祥の地としての浜田市として、神楽産業に対する具体的な文化財指定までのロードマップを示してほしい。

(2) 日本遺産等の保存・活用推進について

- ① 昨年12月定例会議において石見神楽を含めた日本遺産等の魅力を最大限引き出すためには、文化財指定・保存及び神楽振興の役割を持つ「推進室」が不可欠と指摘した。その後の関係部署における協議状況と市長の見解を問う。
- ② 世界に石見神楽の魅力を発信し石見地域に対する誘客を推進するために、2025年開催大阪・関西万博は最高の舞台となる。広島芸北神楽等も積極的に大阪・関西万博を目指し地元協議会と行政が一体となりアプローチを行っているが、浜田市の具体的なアプローチについて問う。

2 今後の環境施策における重要な取組について

(1) 循環型社会システム実現の取組について

- ① 家畜糞尿や食品残渣等をバイオマス発電の原料として有効活用し、自治体内でエネルギー循環させる動きが全国で加速。当市もメタンガス発電等に積極的に取り組み、エネルギー循環型社会への転換を進める考えはないか問う。

3 今後重要な都市機能としての物流機能の強化について

(1) 港湾機能の強化と広域連携について

- ① 物流機能の強化の中でも重要な港湾機能。施政方針でも港湾を活用した産業振興が示されているが、タグボートの配置やコンテナ流通の減少等浜田港湾を取り巻く課題も多い。課題の把握と当市が推進できる施策について市長の見解を問う。
- ② 一昨年、中央防災幹事会は「南海トラフ地震における具体的な応急対策活動に関する計画」を策定。その計画の中で広域物資輸送拠点、海上輸送拠点等が既に示されているが日本海側の浜田市は指定されていない。しかし何が起こるか想像できない南海トラフ地震の物資供給体制検討は必要。本年200万人広島都市圏構想加盟の方向と聞いているが、現在の都市圏構想の105事業の中に防災連携は存在しない。ぜひ加入と同時に防災連携事業の提案を行い、より浜田市の物流機能をアピールすることも必要と考えるが、市長の見解を問う。

(2) 時代の流れに即した新たな物流拠点の拡張について

- ① 近年「物流クライシス」と言われる状況が社会問題。その対策として全国的にAIやロボット導入による「スマート物流」と言われる体制整備が進んでいると聞く。ちなみに「石央物流団地」が昨年30周年を迎えた。当時都市計画として認定された面積の半分しか整備されておらず、関係者から今後の物流団地造成工事の要望が提出されている。5年後には山陰高速道の全通、商港の5万tバース完成予定、さらには浜田沖天然ガス試掘も進みつつあり、「港湾＋高速体系＋スマート物流拠点」整備の総合的戦略は不可欠と考えるが物流団地拡張も含め、市長の見解を問う。